

造影CT検査の説明文書

1.検査名

造影CT 検査部位（ ）

2.検査の目的・必要性・有用性

今回のCT検査では、ヨード造影剤という検査薬を腕の血管から注射しながら行います。造影剤を使用することで、血管の様子、臓器の血流、病気の性質などがわかりやすくなり、診断のための重要な情報が得られます。

ただし、体質に合わなければ副作用が起きることもあるので、投与を拒否することもできます。



3.検査の内容

からの検査となっています。

検査前の注意事項

- 検査の4時間前からは食事をとらないでください。(DIC-CTは5時間前から)
- 検査直前まで、十分に水分をとってください。脱水は造影剤の副作用を強めます。ただし、水分制限されている方は医師の指示どおりにしてください。
- ジュース類・牛乳は、検査前4時間は飲まないでください。
- 糖尿病薬以外のお薬は、通常どおり服用してください。

検査当日

- ① 当日は予定時間の15分前までに1階再来受付機に診察券を通して、1階CT・MRI受付(8番)に造影CT検査予約票と診察券を持っておこしください。
 - ② 予約検査日の都合が悪くなれば事前に連絡してください。
 - ③ 検査日までに当院に入院された場合は、病棟看護師にCT検査予約票を提出してください。
- ☆ 検査当日に採血予定のある方は、採血を先に済ませておいてください。
- ☆ 検査の都合上多少時間が前後することがあります。また救急患者様を優先することもありますのでご了承ください。

検査手順

- ① 必要であれば検査着に着替えてもらいます。

- 検査する部位に金属があるとはずして検査します。
- 金属のないブラジャー・ズボンなど着用していただくと検査が早く進みます。
- 金属でないボタンは、はずさなくても大丈夫です。
- 使い捨てカイロもあればはずしてください。

- ② 検査台に横になります。
- ③ 造影剤を使用する為、腕の静脈から注射します。
- ④ 造影剤を注入しながら複数回撮影します。
- ⑤ 造影剤が入っていくと体が熱くなりますが正常な反応ですぐにおさめます。
- ⑥ 体調を確認し検査終了となります。検査時間は15分程度かかります。

検査後の生活について

- 糖尿病薬のビグアイド系の薬は検査当日の朝から中止し、検査の48時間後から再開してください。

メトグルコ・メタクト・グリコラン・メデット・ネルビス
・メトホルミン・メトリオン・ジベトス・ジベトン・エクメットなど

検査当日朝に服用されていると検査が中止や延期になる場合があります。

- 食事や入浴に制限はありません。
- 造影剤は尿と一緒に体の外に出ます。検査後1日はいつもより水分を多めにとってください。ただし、水分制限されている方は医師の指示どおりにしてください。

4.検査に伴う危険性とその発生率

この検査に用いるヨード造影剤はアレルギー等の副作用が起こることが報告されています。

軽い副作用 (頻度は5%以下)

吐き気 動悸 頭痛 かゆみ くしゃみ 発疹 注射部位の痛み

これらは治療を要さないか、1~2回の投薬で回復します。

重い副作用 (頻度は0.004%で2.5万人に1人の割合です)

呼吸困難 むくみ 意識障害 血圧低下 腎不全など

これらは入院が必要な場合もあります。非常にまれですが40万人に1人の割合(0.00025%)で死亡に至った例もあります。

遅発性副作用

じんましん 吐き気 かゆみ むくみ

検査後、数日たってから現れることがあります。注射部位の痛みが数日つづく事もあります。

(参考文献) 鳴海善文ら 日本放射線医学会学会誌 2005 65巻3号

またヨード造影剤は腎臓から排出される為、腎臓に負担がかかります。

腎機能がよくない方では悪化する可能性があります。

以下の既往のある方は副作用の生じる頻度が高く、症状が強くなる場合もあり、造影剤検査を行わないことがありますので、問診票の記入は、正確にお願いします。

- 今までに造影剤でヨード過敏症による症状を起こしたことのある方
- 気管支喘息(過去5年間に治療あり)などのアレルギー性疾患のある方
- 甲状腺機能亢進症のある方

検査時に副作用が発生した場合には放射線科医師または主治医、看護師、放射線技師が速やかに対応します。状況によっては救急救命チームが治療にあたります。

自宅にもどった後、遅発性副作用の症状がでることがあります。

症状はほとんどが一時的なものです。ご心配があればいつでも下記までご連絡ください。症状が現れた場合は、次回受診の際に医師にお知らせください。

造影剤は注射で行う為、注入中に血管外に漏れることがあります。

CT検査では造影剤を高速で注入する為、漏れた場合は比較的多量の造影剤が漏れる可能性があります。少量の場合は処置を必要とせず自然に吸収されますが、多量の場合は切開などの処置が必要になることもあります。

5.ヨード造影剤の禁忌

ヨード過敏、ヨード造影剤副作用の既往、気管支喘息の方は、重い副作用が発生する確率が高く、造影剤を使用できないことがあります。

また褐色細胞腫、骨髄腫、マクログロブリン血症、テタニー、重篤な甲状腺疾患、腎機能低下、重篤な心疾患などの疾患の方も造影剤を使用できないことがあります。

6.授乳中のかたへ

ヨード造影剤は母乳中に移行すると言われておりますので、造影剤注射後48時間は授乳しないでください。

(参考文献 オムニパーク添付文書)

7.透析患者さんへの対応について

造影剤を使用しても残存腎機能に変化はないので、原則的には造影は可能です。

検査後の水分の過剰摂取は避け水分制限をまもってください。

透析のスケジュールを検査に合わせる必要はありません。

8.代替可能な検査

代替検査には造影剤を用いないエコー、MRIがあります。

しかしこれらの検査も造影剤を用いたCT検査に置き換わるものではなく必要な情報が得られなくなる可能性もあります。

造影MRI検査も有用ですが、検査部位によって優劣があります。



9.検査の同意を撤回する場合

いったん同意書を提出しても、検査が開始されるまでは本検査を受けることを撤回することができます。その場合はその旨を主治医まで連絡してください。

10.患者さんの自己決定権について

この検査に同意されるかどうかは、ご本人が決める権利を持っていますので、あくまでご本人の意思で判断ください。同意されない場合でも当院で可能な対応をさせていただきます。

【検査・症状のお問い合わせ】

加古川中央市民病院 (代表)

TEL : 079-451-5500